

松下村塾に偏差値やランキングなどあったか？

第 272 回 群馬大学アナログ集積回路研究会 講演会

題目：電気工学のための数学（伝達関数、オペアンプの位相補償）

講師：名野隆夫氏（三洋電機 0B）

日時：2015 年 04 月 30 日（木） 14:20～17:30

場所：群馬大学理工学部（桐生キャンパス）総合研究棟 502 号室

学生と一緒に講演を聴き、「教え方」について思ったことを記す。

● 人を見て仏法を説く

- 受講者に話しかける、質問する、対話する。
- 講師自身の理解の過程にしたがって教えるとわかりやすい説明になる。
- その技術を理解するためには何が障害になるかを考える。
どのようにすれば分かりやすいかを練った説明をする。
- 定義だけでなく 何に使うか、どう使うか、なぜ。
たとえば「伝達関数」は抵抗分圧の回路を用いて
なぜ必要かから説明する。
- 図で動作を視覚的に説明する。 板書、身振り・手振りをまじえる。
- 最後は式も（複雑な現象の説明に）うまく利用する。
- 「正確・厳密に説明する」と「わかりやすく教える」は
必ずしも一致しない。
- たくさんのことを詰め込まない。
的を絞って簡単ないくつかのことを多面的に教える。
大学での講義ではたくさん教えなければならないことが多い。
→ そのままでは学生は消化不良になる。
一つのことを丁寧にイメージが湧くように説明する講義も必要。
一つのことが良く理解できると他のこともわかってくる。
- 受講生の人数に応じて最大の効果が上がる教え方あり。
- 教育は競争ではない。
- 身に着けた技術・知識はどのような状況になっても
奪われる・失うことはない。

名野氏の講義



翌日5月1日（金） **落合政司氏**（サンケン電気、群馬大学客員教授）の「地球温暖化とその対応」の講演での最後の言葉が印象的であった。

「少なくとも、40歳過ぎたら世界のことを考えてください」

教えるための資質は 自分が向上する努力ができることかと思った。

写真提供 石川信宣 文責 小林春夫